

治療日		第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	第6日目	第7~14日目	第15日目
治療内容									
検査	採血	○							○
診療	副作用の問診	○							○
	検査結果	○							○
治療中止基準	①WBC 3000未満 ②血小板 10万未満 ③発熱・CRP上昇 ④PS 2以上	-	-	-	-	-	-	-	-
点滴	①生食100ml +アロキシ0.75mg +デキサート3.3mg×2A 点滴静注【30分】	↓							↓
	②生食50ml 点滴静注【15分】	↓							↓
	③生食100ml ベクティビックス 6mg/kg 全量100mlにする 点滴静注【60分】 フィルター付きルートで	↓							↓
	④生食50ml 点滴静注【15分以上かけてルートフラッシュ】	↓							↓
	⑤ 5%ブドウ糖250mL レボホリナート (200mg/m ²) 点滴静注【2時間】⑤'と同時に	↓							↓
	⑤' 5%ブドウ糖250mL エルフラット (85mg/m ²) 点滴静注【2時間】⑤と同時に	↓							↓
	⑥生食50mL 5-FU (400mg/m ²) 点滴静注【全開】	↓							↓
⑦生食500mL 5-FU (2400mg/m ²) 点滴静注【46時間】	↓							↓	

減量基準

重度 (Grade3以上) の皮膚障害発現時の用量調節の目安

皮膚障害発現時の本剤の投与量	本剤の投与	投与延期後の状態	本剤の用量調節
6mg/kg	投与延期	6週間以内にGrade2以下に回復	6mg/kgまたは4.8mg/kg
4.8mg/kg	投与延期	6週間以内にGrade2以下に回復	3.6mg/kg
3.6mg/kg	投与中止		

※6週間以内にGrade2以下に回復しなかった場合は、本剤の投与を中止する。

看護のPoint!!

特に初回投与時と投与後3時間くらいは、インフュージョンリアクション発現に注意。異常があればすぐに主治医に報告。初回のベクティビックスとそのあとの生食は投与時間を守ってね。

2回目投与以降は投与時間が多少早くても遅くても大丈夫。エルフラットは2時間以上かければ大丈夫。皮膚障害の頻度が高い。投与後1週間以内に発現しやすい。早期からケアと対策が必要。

主治医やがん認定看護師と相談しながら症状にあった対策が必須!

口内炎、下痢の可能性もある。持参薬にワーファリンがあれば主治医に報告 (5-FUとの相互作用あり)

エルフラットによる過敏症症状に注意。呼吸困難感、かゆみ、発赤、皮疹など。

主治医に報告し、次回からガモファー注とボララミン注の前投与を考慮する。(ガモファー錠と材料は錠でも可能)

エルフラットによって末梢神経障害が起こりやすい。まずは冷たいものの接触を避ける。